

そう だい
総 題
せいしよ よげん まな かた
「聖書の預言の学び方」

だいにか きそ そうせいき しがつじゅうににち
第2課 基礎となる創世記（4月12日）

やまじ さとる
山地 悟

あんしゅうせいく
[暗唱聖句]

その翌日、ヨハネは、自分の方へイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。」（ヨハネ 1：29、新共同訳）
よくじつ じぶん ほう こ み い よ つみ と のぞ かみ
こひつじ いち： にじゅうく しんきょうどうやく

いち あんそくにち ご
1. 安息日午後

この週は、黙示録を学びます。黙示録を理解するには、旧約聖書、特に最初の聖書である創世記がとても大切です。創世記には、黙示録に出てくる大切な考えがたくさん書かれています。創世記は、私たちの世界が罪で苦しむようになった理由を教えてください。今週は、黙示録の基礎となる創世記のいくつかの大切な考えを学びます。そして、聖書全体のつながりや、神様、私たち人間、そして宇宙の間の争いについて深く理解することを目指します。
しゅう もくしろく まな もくしろく りかい きゅうやくせいしよ とく さいしよ せいしよ そうせい
き たいせつ そうせいき もくしろく で たいせつ かんが か そう
せいき わたし せかい つみ くる りゅう おし こんしゅう もくしろく きそ
そうせいき たいせつ かんが まな せいしよぜんたい かみさま わたし
にんげん うちゅう あいだ あらそ ふか りかい めざ
ち人間、そして宇宙の間の争いについて深く理解することを目指します。

に にちようび さいしよ げんきゅう げんそく
2. 日曜日：「最初の言及」の原則

聖書で言葉が最初に出た時（特に創世記の初め）に、その言葉の基本的な意味が決まります。これは「最初の言及の原則」です。神様は少しずつ大切なことを教え、まず基本から始めます。神様の真理は変わりません。創世記の最初の言葉の意味を知ることが、聖書全体を理解する上で大切です。神様の言葉への信仰を大切にしましょう。
せいしよ ことば さいしよ で とき とく そうせいき はじ ことば きほんてき
い み き さいしよ げんきゅう げんそく かみさま すこ たいせつ
おし きほん はじ かみさま しんり か そうせいき
さいしよ ことば い み し せいしよぜんたい りかい うえ たいせつ かみさま
ことば しんこう たいせつ
の言葉への信仰を大切にしましょう。



さん げつようび かみ あい りかい
3. 月曜日：神の愛を理解する

罪で私たちの考えはゆがみ、神様の視点ではなく自分の狭い視野で見えてしまいます。特に「愛」は、世の中と神様の考えが違います。神様の愛は、自分より相手を大切にする愛です。聖書の預言を理解するには、神様の愛を知ることが大切です。創世記 22章で神様がアブラハムに息子をささげるように言われた話は、神様が私たちをととても愛していることを示しています。
つみ わたし かんが かみさま してん じぶん せま しや み とく あい
よ なか かみさま かんが ちが かみさま あい じぶん あいて たいせつ あい せいしよ よ
げん りかい かみさま あい し たいせつ そうせいきにじゅうにしょう かみさま むすこ
ささげるように言われた話は、神様が私たちをととても愛していることを示しています。
しつもん そうせいきにじゅうにしょう ものがたり かみさま あい まな
質問：創世記 22章の物語から、神様の愛についてどんなことを学びましたか？

4. 火曜日：イサクの質問—「小羊はどこにいますか」

聖書で最初に「小羊」という言葉が出たのは、創世記 2 2 章でイサクが尋ねた時です。黙示録ではイエス様が何度も「小羊」と呼ばれます。イサクの話は、小羊がイエス様を表すと教えてくれます。イサクの質問への答えは、旧約聖書全体で少しずつ出され、新約聖書でイエス様が十字架で命をささげた時に、はっきりしました。イエス様が私たちの身代わりになったことは、救いの基礎であり、裁きの時にも希望を与えます。



5. 水曜日：死と向き合う

神様から離れた世界では、死はいつもそばにいて、いつ来るかわかりません。死は罪の罰で、命の源である神様から離れた結果です。聖書の預言では、死は大きなテーマで、解決策はイエス様の死と復活だけです。聖書で最初の死は、アベルが殺された物語です。これは、罪のひどさを示す、悲しい出来事です。イエス様が十字架で亡くなったのも同じでした。でも、イエス様は死と陰府の鍵を持ち、私たちに永遠の命をくれます。

質問：アベルの死とイエス様の死で、似ていると思う点はどんなところですか？

6. 木曜日：蛇

黙示録で大切なテーマの一つは、神様を敬うこと（礼拝）です。偽りの礼拝をさせようとするのは「竜」で、創世記の蛇と同じです。蛇はエデンの園でアダムとエバを誘惑し、神様に背かせました。創世記 3 章と黙示録 12 章には、サタンが人々を惑わす様子が書かれています。神様の性質は変わりませんが、サタンの策略も変わりません。聖書を通して、サタンの策略を見抜き、危険を避けることができます。神様は私たちに知恵を与えてくれます。



7. 金曜日：さらなる研究

キリスト教の教えは、昔から実際にあった出来事に基づいています。聖書の物語は、神様が歴史の中で人とどう関わってきたかを教えています。歴史を学ぶと神様の変わらない性質がわかります。聖書のメッセージはいつも同じですが、簡単ではありません。神様の深い知恵を学ぶことは、終わりのない探求です。黙示録が書かれた理由の一つは、イエス様の教えを守り続けるためです。新しいことだけでなく、昔からの大切な教えをしっかり理解することが大切です。

【^{かんが}考えてみよう】

1. ^{いち}聖書^{せいしょ}を^よ読むと、いつも^{あた}新^{はっけん}しい^{おし}発見^{たいせつ}があります。すでに^{しんり}教え^{まも}られている^{つづ}大切な^{かんが}真理^よを守り続け
るためには、どのように^とバランス^よを取れば良いでしょうか？
2. ^に教会^{きょうかい}で、聖書^{せいしょ}の^{よげん}預言^{あた}について^{かいしゃく}新^でしい^{ばあい}解釈^{かんが}が出てきた^よ場合、どのように^{かんが}考^よえるのが良いで
しょうか？ ^{あた}新^{まな}しい^{たいせつ}学び^{ほんとう}も^{ただ}大切^{おし}ですが、それが^み本当に^わ正しい^{かんが}教え^よなのかどうかを見^{かんが}分^よけるには、
どうすれば良いでしょうか？